

東洋紡株式会社 2023 年度 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2024 年 5 月 14 日（火） 9:00～9:45

場所：WEB 形式

説明者：代表取締役 社長 竹内 郁夫

本資料中の将来の業績見通し等に関する記述は、現時点における情報に基づいており、当社として保証するものではありません。実際の業績等は、さまざまな要因により異なる可能性があります。

Q：フィルムの 23 年度営業利益について、当初計画に対し改善が遅れた要因は？

A：包装用フィルムの需要が落ち込んだことに加えて、価格改定の打ち出しから収益実現までのタイムラグが生じたため。

Q：包装用フィルムの価格転嫁は 24 年度に完了するか？

A：23 年 11 月、24 年 1 月に打ち出した価格改定は、24 年度に効果が実現すると見ている。原燃料価格の高騰分については、ほぼ価格転嫁できているが、人件費や物流費などのコスト増加については、まだ価格転嫁できていない部分があり、今後も価格改定を検討する。

Q：包装用フィルム市場について、どう見ているか？それに対し、今後も数量増を狙っていくのか？

A：コロナ禍の巣ごもり需要の際、国内の供給が不足し海外品が流入したが、今後はさらに海外品が増えることはなく、一定の割合で残ると見ている。国内の市場は徐々にシュリンクすると見ており、付加価値の高い製品の販売を伸ばしシェアを上げていく計画。

Q：環境配慮フィルムの足元の状況は？

A：新製品の超高剛性 OPP フィルムは既に数銘柄を販売開始しており、市場での反応も良い。モノマテリアル可能なフィルムであり、欧州の環境規制にも対応できると認識している。

Q：“コスモシャイン SRF（以下、SRF）”とセラミックコンデンサ用離型フィルム（以下、MLCC）のそれぞれの販売見通しは？

A：SRF については、23 年度は YOY 約 30% 増収に対し、24 年度はほぼ横ばいの見通し。足元はフル稼働の状況で、今後は薄肉化などにより増量を考えている。MLCC については、23 年度は YOY 約 25% 増収に対し、24 年度は約 20% 強の計画。24 年度の後半からハイエンド品が回復してくると見ている。

Q：環境・機能材の 24 年度営業利益予想について、23 年度下期の水準からすると保守的のように見えるが、その理由は？

A：VOC 回収装置の受注自体は堅調であるが、23 年度の前倒し需要からの反動減、エレメントの交換需要のタイミングを折り込んでいるため。

以上